種名	セ　　リ Oenantbe javanica 		
分類	被子植物双子葉植物網離弁花類セリ科	俗称	カワゼリ、シェリコ、セイリ、ミズゼリ、シロネグサ
生活型	多年草、葡萄(ほふく)型		
分布	日本全土、千島・樺太・ウスリー・東アジアからインド・オーストラリアにかけて分布する。		
形態	茎:茎は四角柱状で中空、根元から何本も出て四方に這い、先は直立する。高さ 30～50 cmになる。全体に柔らかく滑らかで稜があり、毛はない。葡萄茎に節がある。 葉:根生葉は根ぎわから叢生し、葉柄がある。葉は羽状に切れ込んだ複葉で数個の小葉がある。小葉は卵形で長さ1～4cm、縁には不揃いの鋸歯がある。葉のつけ根はセリ科特有のさや状になって茎を包む。全草に香りがある。 花:花期は7～8月。茎の先に径3～5cmのかさ状の花序をつけ、白い花を多数つける。花は5弁花で花弁は卵形、雄しべは5本、雌しべの花柱は2本で、花後、果実ができる。 根:葡萄茎の節から白いひげ根を出す。 冬芽:越冬する芽は、葡萄茎の節にできる。		
類似種	ドクゼリは有毒の大型多年草で、茎の中空で 90～100 cmになる。花序は白色の小花を 10 個ほどつけて丸くなること、小葉は長楕円状披針形で長さ3～8cmと大きいこと、竹に似た太い地下茎を持つことなどで区別できる。地下茎や根にシクトクシンという毒成分を持つ。ヌマゼリは無毛の多年草で、茎は中空で多くの枝を出し、高さ 60～100 cmになる。セリより大型なこと、小葉が細長いこと、果実は倒卵形で分果の隆条はすべて太くて相接し、油管は約 10 個あることなどで区別できる。		
生息場所	水路や湿地、水田の畦などに多く生育する。河川では上流から下流までの水辺に生え、クサヨシとともにセリークサヨシ群集を形成し、特に下流域の砂州下流側の泥土の堆積が顕著な、発達しつつある砂州上に生育する。土壌が貧栄養状態にあるときはツルヨシ群集が繁茂し、やや養分に富んでくるとセリークサヨシ群集となり、さらに富栄養化が進行するとナガバギシギシーギシギシ群集に遷移する。		
繁殖	繁殖は種子と地下茎で行なわれるが、主に地下茎で増える。 花期は7～8月。8～9月に果実を作る。 種子は円形で直径約2mm、軽いので水面に浮上して流動する。 栄養繁殖では、葡萄茎の節から新芽と根を出して増える。		
他生物との関係	カラスヨトウ、ギンスジキンウワバなどの食草である。		
配慮のポイント	適度に草刈りを行ない、繁茂を防止する。		
トピック	セリは独特の香りと風味があり、冬から春にかけて生育するので、春先の野菜としても栽培される。春の七草の1つ。		
その他			
引用文献:『川の生物図鑑』を改変			